

令和4年度 前期学校評価集計結果について

中央市立田富中学校
校長 丹澤 博

はじめに

本校の保護者、生徒、教職員に対して令和4年7月に今年度1回目のアンケートを実施しました。アンケートの結果を考察し、自己評価を行いました。これを今年度後半の学校経営に活かしていきたいと考えます。

1 アンケート項目について

アンケート項目は一昨年度見直しを行い、より学校教育目標や学校経営方針が反映されるようにしました。そこで項目は一昨年度のものに変更せず、今年度も年2回実施とし、年度内に取り組みべき内容については年度内に対応していきたいと考えました。

2 評価について

「令和4年度 教職員・生徒・保護者の学校評価平均点」「学校評価計画」「昨年度同期との比較」から考察しました。

(1) 評価平均点から考える「努力したい項目」「改善が必要な項目」

- * 評価は4段階で実施し、平均値を2.5と考えました。
また、評価平均点の数値を次のように判断しました。
 - 3.0以上「概ね良好」
 - 2.5以上3.0未満「努力したい項目」
 - 2.5未満「改善が必要な項目」

(2) 昨年度の前期学校評価との比較

- * 昨年度の前期の質問内容との変化を見ました。

(3) 肯定率から

- * 評価を4(そう思う)と3(ややそう思う)と、肯定的評価をしている割合を肯定率として算出してみました。90%以上を、取り組みの成果が出ている項目、70%以下を、本校の課題として改善が必要な項目として判断しました。
 - 90%以上を三者(保護者・生徒・教職員)が評価している項目は、昨年同期と同様に7項目になりました。
 - ・先生はわかりやすい授業を進める努力をしている
 - ・道徳の授業等を通して、人権の尊重や思いやり、道徳的な判断力・実践力を育てている
 - ・時間・あいさつ・言葉遣いなどに気をつけ、集団のルールを守り、仲間と協力して生活している
 - ・行事や生徒会活動、部活動を通じて、心身ともに成長している
 - ・生徒の健康管理や安全に配慮している
 - ・正しく生きることについて考えたり、やさしい心・思いやりの心で生活している
 - ・学校・学年・学級だよりなど、様々な便りの発行を充実させている

○70%以下の評価となっている項目は三者(保護者・生徒・教職員)とも、ありませんでした。個々にみていくと、肯定率が81%の項目が最も低く、「学校は、生徒が将来の職業や進路について前向きに考えられるように、学年に応じたキャリア教育を行っていると思う」(保護者：昨年同期80%、一昨年同期77%)でした。「キャリアパスポート」を活用し保護者との連携を図るなどの取り組みを継続していきたいと考えています。また、特別活動を要としたキャリア教育の全体像(すべての教育活動を通してキャリア教育を実施すること)を理解いただけるよう努めていきます。

3 三分類（「概ね良好」「努力したい」「改善が必要」）した評価について

(1) 総括

三者の総合平均点を比較すると、生徒の評価が最も高く、総合平均が3.40でした。（昨年度同期と同値でした。）教員の評価は3.28（昨年度同期より-0.02）、保護者の評価がやや低く、平均で3.1（昨年度同期より-0.04）でした。

『生徒は前向きに授業に取り組んでいると思う』『先生は、わかりやすい授業をすすめる努力をしていると思う』『授業では、自分の考えをまとめたり、話し合ったり、発表する場面がある』のいわゆる「主体的・対話的で深い学び」に関する3項目は、前年度大きく向上しましたが、今年度も更に向上しました。これは、1学期中に教科ごと、指導主事経験者を招聘して個別指導を受けたことをはじめ、ポイントをしばって「授業づくり」に取り組んだ結果だと言えます。ただ、家庭学習に結びついていないのではないかという意見もあります。「振り返り」の充実や「家庭学習取り組み表」の有効活用に関し更に取り組む必要があります。一方、前年度と比較して、0.1ポイント以上下がった項目は、ありませんでした。

平均値が低かった項目をみると、保護者の『学校は、生徒が将来の職業や進路について前向きに考えられるように、学年に応じたキャリア教育を行っていると思う』で2.9でした。前述しましたように、特別活動を要とした全教育活動においてキャリア教育を推進するとともに、「キャリアパスポート」を保護者の皆様にご覧いただく機会を今年度もとっていきます。特設授業ではありましたが、本校卒業生の浅原拓真さんから、「生き方・考え方」「進路」について講演していただく機会も設けました。今後も生徒が自分の将来を見つめるきっかけとなるような場面を計画的に設定していきたいと考えています。

(2) 「概ね良好」（3.0以上）の評価について

* 保護者、生徒、教職員に共通する10項目すべて3.0以上の評価でした。

- ・生徒は前向きに授業に取り組んでいる
- ・先生はわかりやすい授業を進める努力をしている
- ・授業では、自分の考えをまとめたり、話し合ったり、発表する場面がある
- ・学校は、時間・あいさつ・言葉づかい等のルールやマナーの大切さ、よりよい生活習慣を指導している
- ・先生は、いろいろな問題を見逃さずに対応し、家庭との連絡を密にするとともに、生徒からの相談に適切に応じてくれる
- ・道徳の授業等を通して、人権の尊重や思いやり、道徳的な判断力・実践力を育てようとしている
- ・行事や生徒会活動、部活動を通して一人ひとりの生徒のよさを発揮させ、体を動かすことの楽しさや体力づくりの大切さを指導している
- ・生徒の健康管理や安全に配慮している
- ・学校行事や生徒会活動、部活動は生徒にとって充実した活動になっている
- ・学校・学年だよりや保健・図書だよりなどの発行を充実させ、PTAの会合でも、学校の取組を知らせている

(3) 「努力したい」（2.5以上3.0未満）の評価について

三者がそろって2.5以上3.0未満の評価をした項目は、ありませんでした

さらに「授業と家庭学習の有機的な結びつき」「学びの大切さ」などを切り口に、生徒とともに「家庭学習の習慣化」「学力向上」について「家庭学習取り組み表」を柱に全校体制で取り組んでいきます。

(4) 「改善が必要」（2.5未満）

今回のアンケート調査の結果で平均値以下の2.5未満の項目はありませんでした。

4 成果と課題について

(1) 【成果】今年度前半に取り組んだ事への評価と考察

今年度、中央市の教育の基本「まごころ」、本校校訓「誠実」を踏まえ、『手厚い指導』を全職員で心がけています。

3つの柱として昨年度に引き続き、①「主体的・対話的で深い学び」の高い次元での実現②家庭学習の習慣化③生徒の声に耳を傾け、生徒にとって「楽しい学校」の実現（悩み相談、いじめ等の早期発見・早期対応を含む）を設定しました。

①については、年度始めの取り組みが有効と考え、各教科指導主事経験者を招聘し個別指導を受けました。柱には、「生徒の声（わからない・なぜ）に耳を傾ける。」「考える時間を設定する。（できるだけ考えを書かせる。）」「めあて、それに対応するまとめ・振り返りの充実」の3つを設定し、この3つの柱を中心に取り組みました。授業中の私語などほとんどなく、教師の努力が生徒に伝わっている印象でした。これからの先行き不透明な社会を生き抜くためには、教師主導の詰込みではなく、「自ら問いを立

て、課題に向けて取り組むこと」が重要になります。そして、答えが不明確であっても最善解を求めようとする姿勢を毎回の授業の中で培っていきたいと考えます。

②については、授業が充実してきている一方で、まだまだ家庭学習が十分ではないという声を保護者から聞きます。「家庭学習取り組み表」の有効活用について、校内研究で「効果的な使用例」「家庭学習に結びつくコメント」などを収集し、再評価した上で、共有を図る必要があると考えます。また、主体的・対話的で深い学びに向けての取り組みの中で、「振り返り」が課題ではないかと考え、取り組んできました。自ら振り返り次につなげることは、先行き不透明な社会を生き抜くために必要不可欠です。「振り返り」について、引き続き、重点課題にしたいと考えています。

③については、生徒理解のためにQ Uや生活アンケート等を行い、生徒の実態把握や学級集団について分析を行うことができました。生活アンケートが有効活用できるよう、アンケートから教員と生徒の対話が生まれるよう努めています。一人一人の生徒にとっての居場所づくり、不登校生徒を生まない学級づくりへの取り組みを、さらに進めていきたいと考えています。また、今年度も毎月第一月曜日に保護司・更生保護女性会の皆様・生徒会・教職員・PTA生徒指導部が協力して、あいさつ運動に取り組んでいます。「あいさつ」は子どもたちが将来社会に出てからもとても大切なものです。今後様々な機会を通じて、十分な定着を目指していききたいと思います。

(その他)

感染症対策等を生徒とともに考え、自他の生命を守る態度の育成を日々行ってきました。生徒たちにとっては、かけがえのない中学校生活であることを我々教職員が認識し、感染対策をする中で、生徒たちにできるだけの活動を提供できるよう、2学期以降も努めていきたいと考えています。

(2) 後期に重点化する取り組みについて

引き続き①「主体的・対話的で深い学び」の高い次元での実現②家庭学習の習慣化③生徒の声に耳を傾け、生徒にとって「楽しい学校」の実現(悩み相談、いじめ等の早期発見・早期対応を含む)の3つの柱に取り組みます。特に、「学力向上・家庭学習の習慣化(振り返りの充実)」「学級集団づくりの充実」を後期の重点項目とします。

3つの柱についての取り組みを継続していく中、特に、以下の項目について次のことに重点的に取り組みます。

①『学力向上・家庭学習の習慣化』

学力向上は学校教育の根幹であると考えます。2学期以降も、全職員一丸となり、生徒・保護者とともに取り組みたいと考えています。

<具体的な取組>

- ・「授業のめあてを示し、振り返ること」
振り返ることで、自ら、足りなかったこと・努力したいことを見出させ、それを家庭学習に結びつける。
- ・「家庭学習取り組み表」を充実させ、個に応じた学習指導を推進したい。
【担当】 研究主任, 学年研究担当

校内研究を通して、生徒が自ら問いを発し、協働により、課題を解決していく「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を行い、達成感や充実感の持てる授業実践を目指し研究を進めています。生徒が主体的に授業に取り組むことができるように、授業づくりに引き続き取り組んでいきたいと考えています。

生活アンケートにおいて家庭学習時間の調査を行ったところ、学習時間は二極化しており、家庭学習を継続している生徒が増加している反面、そうでない生徒の割合も増加しており、課題となっています。「家庭学習取り組み表」を通して、個別指導に努めていきます。

②『学級集団づくりの充実』

教師と生徒との信頼関係及び生徒相互のよりよい人間関係がすべての教育活動の土台となることを考え、学級集団づくり・学級経営の充実に取り組んでいます。今学期は学校行事があり、更に充実させるチャンスでもあります。

<具体的な取組>

- ・各種検査の分析（ＱＵ，生活アンケート）を学級経営に生かす。
- ・各学級での自己肯定感・自己有用感を高める取り組み（ほめ言葉のシャワー・成長ノート・価値語等）の充実
- ・学校行事や部活動などを活用し，一人一人の生徒が活躍できる場面の設定
- ・道徳教育の推進
[担当] 研究主任，学年研究担当

5 その他

(1) 三者からの回答数

・生徒	405名	回収数	354名	(回収率	87.4%)	理由：欠席・無回答
・保護者	405名	回収数	312名	(回答率	77.3%)	
・教職員	37名	回答数	37名	(回答率	100%)	

(2) ご意見ご要望について

○感染症対策について

昨年度に引き続き今年度も，新型コロナウイルス感染症により，学校行事の変更や健康管理など，生徒または保護者の方にも多くのご負担をおかけしています。現在も文部科学省や県・市からの指導に基づいた衛生管理マニュアルや感染拡大防止対策により，生徒の学びを最大限保障しながら感染及び拡大のない学校のために努力を続けているところです。

登校時の健康チェックの強化，給食の黙食，授業における生徒間の距離と話し合い活動の工夫などの具体的な方策とともに，生徒自身の意識の高揚をうながしています。ICT機器を授業に取り入れ，対話的な学習がオンライン上でも実施できるように努めています。

○学校からの情報発信について

コロナ禍により，授業参観や行事，部活動など生徒の活動の様子を直接保護者が目にする機会が減っていますが，可能な限り，来校いただいて参観していただけるよう工夫しています。学校・学年・学級通信をはじめ，生徒指導・保健・図書からのお便りなど，学校や生徒の様子，今後の予定などをできるだけお伝えするようにしています。8月の職員会議でも，できるだけこまめに学校の状況を家庭にお伝えすることを確認しました。また，学園祭の様子を動画配信しました。また，緊急にお伝えしなくてはならない情報や予定変更等につきましては，学校メールを通じてお知らせをすることを予めご了承ください。

○学校評価について

一昨年度より評価の回数を年1回から2回に増やしました。年1回では課題に対する改善が次年度になってしまうことから，その年度内によりよく改善するために変更を行いました。前期（7月）・後期（12月）で行っています。前期では評価しきれない質問項目もありますが，後期に判断をしていただければと思っています。昨年度の学校運営協議会の中でも，年2回にしたことを評価していただきました。生徒・保護者・教職員の評価，第三者評価など，様々な方々のご意見を学校運営に反映させ，よりよい田富中学校の教育活動につなげていきたいと考えています。

○学校の決まり・生徒指導について

校則については，毎年見直しをしています。学校教育目標に沿いながら，その時代や状況に適したものになるよう検討していきます。また，生徒自身にも決まりについて考えさせながら，生徒会を中心によりよい学校を作る力を養いたいと考えます。校則だけではなく，学校生活においてお互いを尊重しながら，全校生徒が気持ちよく過ごすための環境づくりを，教職員と生徒がともに考え作り上げられるよう，より一層努力していきたいと考えています。

○家庭学習について

生徒の主体的な学びのひとつとして，帰りの会の時間を延長して，家庭に帰ってからの学習の計画づくりを

行っています。その根本にあるのが、日々の授業における「振り返り」になります。担任や学年の教員で一人ひとりの自主学習ノートをチェックしながら、個々の評価やアドバイスを行えるように進めています。以前に比べ、かなりの生徒に定着しつつあるが、やり方や学習内容を含めより充実した活動となるために、きめ細かな指導が必要となります。校内研究会や学年部会などでより一層の研鑽を進めていきます。